

## ▲△▲ 奥秩父縦走 瑞牆山～金峰山～甲武信岳（個人山行） ▲△▲

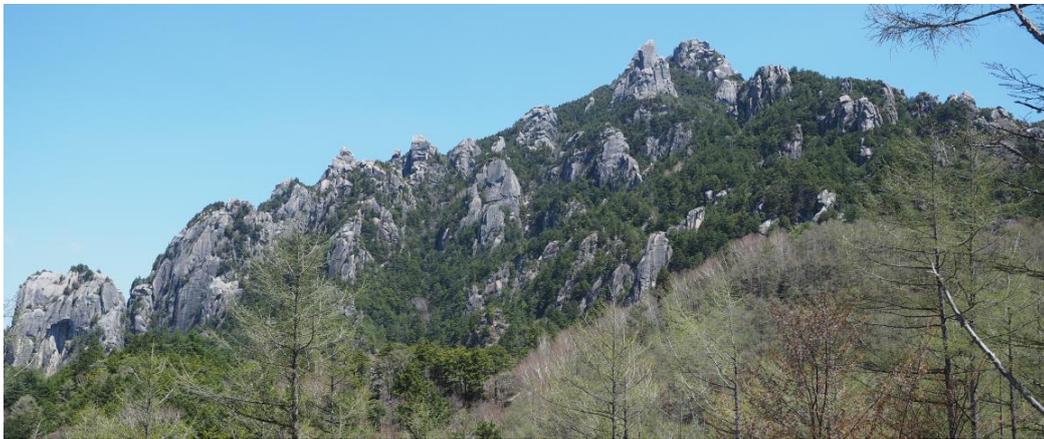
（報告） J. F.

◎山行期日：2022年5月3～5日 ◎メンバー：J. F.（単独）

ゴールデンウィークのちょうど中盤、天候が回復し、4～5日は晴れが続く、との予報が出ています。またとないチャンス！3～4日くらいのやや長めのコースを思案して、瑞牆山～金峰山～甲武信岳の奥秩父をテント縦走することにしました。

1日目：

特急あずさで蕪崎駅に6:36着。大変良い天気。瑞牆山荘行きバス乗り場は、すでに50人ほどの行列になっていました。うわー、さすが登山日和のゴールデンウィーク。この後、臨時便も出る予定とのことでしたが、乗り物でタイムロスはしたくない。1時間20分立ちっぱなし、寿司詰めですが、一番バスに乗車しました。瑞牆山荘から10:50に登山開始。樹林の道を登っていくと急に展望所に出て、瑞牆山が現れました。巨岩がむき出しの異様な迫力。この山は見ごたえあって良いですねー。



瑞牆山は奇岩の迫力

富士見平の小屋に到着。大きなザックはそのあたりに置いて、ペラペラの軽リュックのみで瑞牆山をピストンします。やはり登山者は多め、親子連れも多い。小さい子も頑張っている。時々、すれ違い渋滞で適度に休憩できます。山頂が近くなるにつれて、大きな岩を登るようになり、梯子やクサリ場も越えて、12:40山頂到着。標高2230m。眺めが素晴らしい。



桃太郎岩



瑞牆山山頂（奥は雪の残る八ヶ岳）

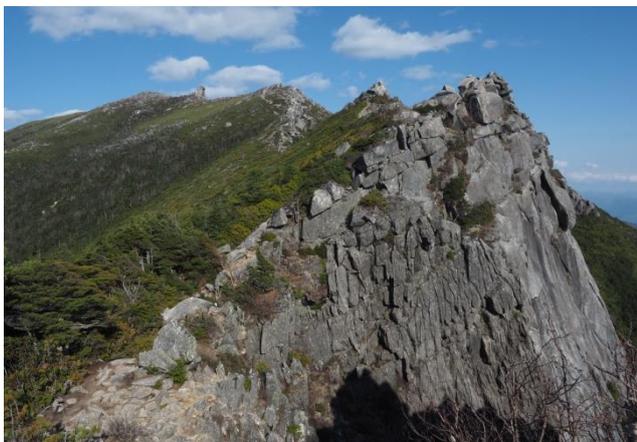
今日このあと向かう予定の金峰山の方を眺めると、上の方はわずかに雪が残っていそうです。さて、あまりのんびりはしてられません。山頂を後にして、富士見平に戻ると2時でした。すでに森の中にカラフルなテントがたくさん張られています。この混雑ぶりは、やはりキャンプブームなのでしょう。さて再び全荷物を背負って金峰山へ出発。樹林の中を一定の斜度で登っていきます。自分の頭よりも高いところの枝に白い氷がついていて、少し風が吹くとその氷がカラカラと音を立てて上から降ってきて頭にあたり、路上にもその氷がたくさん積もっていて、ガラスの破片を踏んでいるような感触で、面白いなと思いながら歩きました。時々、下ってくる人とすれ違いますが、みんなチェーンスパイクをぶら下げています。「今から登頂ですか？」と度々、聞かれます。日帰りの場合は日没前に降りるの厳しいですよ、と心配して声をかけてくれるのですね。「上の小屋泊なので大丈夫です」と答え、安心してもらいました。



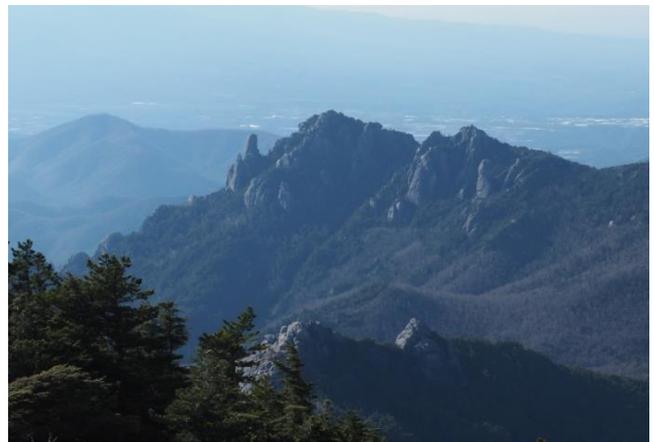
大ヤスリ岩



富士見平のテント場

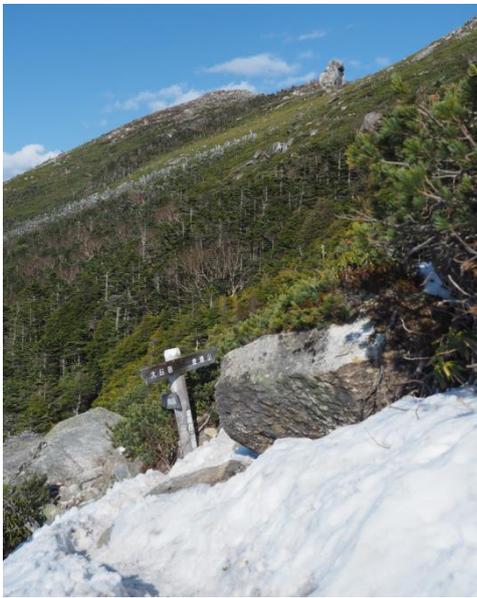


千代ノ吹上と呼ばれる断崖絶壁



瑞牆山

そのうち樹林帯を抜けて、岩と低木ばかりになりました。登山道は尾根の中央か、やや北側斜面についているため、ところどころ残雪ゾーン、凍結路が現れ、注意して越えていきます。緑の景色のなかに、樹氷の残り？の白のまばら具合が不思議です。金峰山のシンボル五丈石がだんだん近くなり、ついに2599mの山頂に到着。17:20、まだ日没まで1時間ほどあります。道中、今日の宿泊地をどうしようか考えていました。もともと、この先の大弛峠小屋まで行きたいと思っていましたが、ここから2時間です。本当はすぐそばの金峰山小屋に泊まるのが正解でしょうが予約していない。何よりテント場がないのが残念です。せっかくテント装備を担いでいるのに小屋泊は悲しい。大弛峠を目指して途中でいつでもテントを張ってピバークすれば良い、水も必要量ある、と判断しました。尾根道をゆるやかに30分ほど下っていったところに、ハイ松と残雪の平らな広場を見つけ、そこを幕営地にしました。テントを設営するうちに夕暮れ空になり、富士山の姿をひとり静かに眺めました。やはりテント泊できて良かったです。



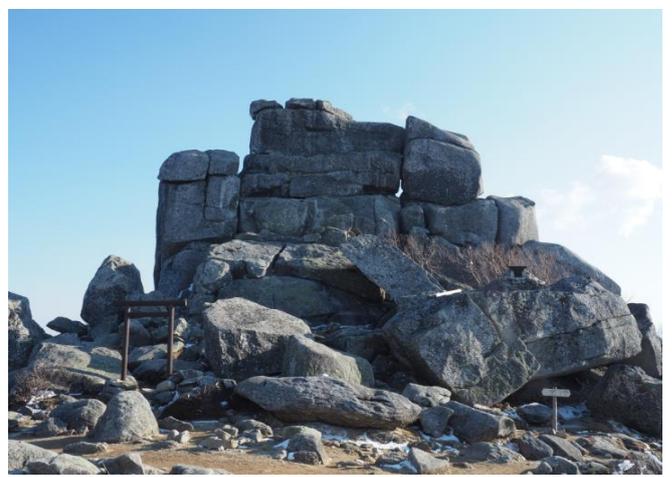
道には残雪。金峰山頂まであと少し



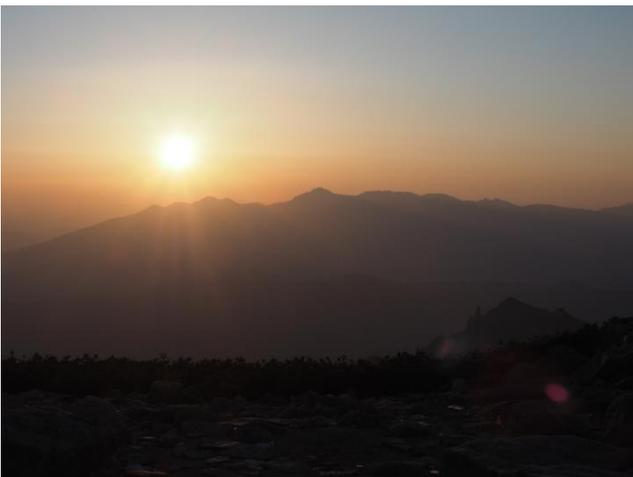
樹氷の残り（遠景と近景）



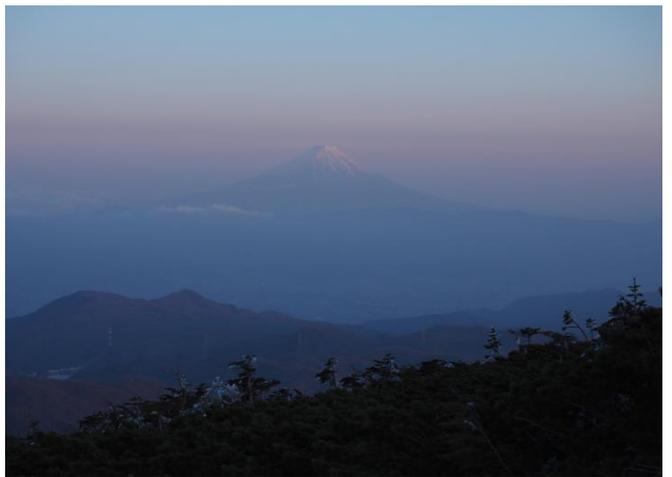
金峰山のシンボル 五丈石



五丈石



日没



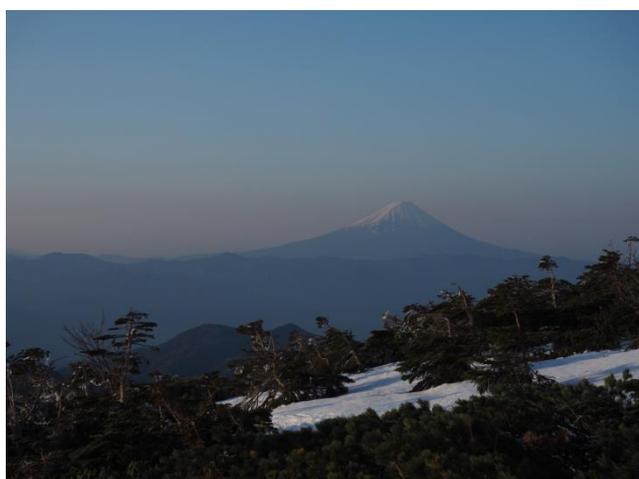
やわらかい色に包まれる富士山

## 2日目：

今朝も良い天気です。富士山が美しい。テントを撤収して6:00出発。今日は8時間の長い行程で、道のコンディションも不明なので、早めの行動開始です。残雪がけっこうありますが固くしまっていて気持ちよく歩けます。約1時間で朝日岳2579m。樹氷が綺麗です。再び樹林の中を下っていき大弛峠に8:00着。大弛小屋は静かで「午前中、留守にしています」の張り紙がされていたので、勝手に飲み水を汲ませ

てもらいました。さあ、ここからエスケープルート無しなので覚悟を決めて出発です。小屋のすぐ裏手から急登です。「国師ヶ岳の前後は雪が深いですよ。木道が凍って滑るかも。」と他の登山者から聞いていましたが、その通りまだ雪山でした。急な登り下りの斜面では樹木につかまったりしながら、国師ヶ岳の山頂に 8:50 に到着 (2590m)。富士山が見えています。「国師ヶ岳を越えれば雪は無くなり甲武信岳まで楽勝ですよ」との話のとおり、雪は全く無くなり、ひと安心。

マイペースで尾根道を進みます。両側が樹木で景色もあまり見えませんが、上り下りの変化や、倒木をくぐったり跨いだり、いくつか小ピークもあって少しは気が紛れますが、地図には「平凡な尾根道」と書かれている通りで納得しました。気温が上がって半袖 1 枚 + アームカバーになりました。飲料水は 1.5 リットルで足りると見込んでいましたが、それ以上減らさなくてよかったです。甲武信岳までだいぶ近づき、道が右に直角に曲がる富士見という地点まで来ました。地図の計算ではあと 2 時間、実はこの最終区間がとてもタフでした。一度大きく下ってからきつい登り返し、再び下ってまた鬼のような急登が続き、やっとのことで甲武信岳山頂に出たのでした。13:35 山頂到着。(2475m) 金峰山からつながる尾根が見えており、遠くからよく歩いたな、と満足でした。



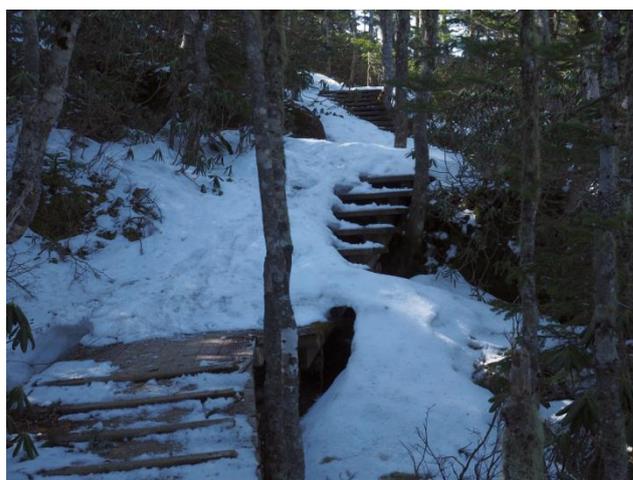
朝の富士山 (幕営地にて)



樹氷 (朝日岳の付近)



大池小屋



木道、階段も雪に埋まっていた (国師ヶ岳の付近)



甲武信岳山頂への最後の急登

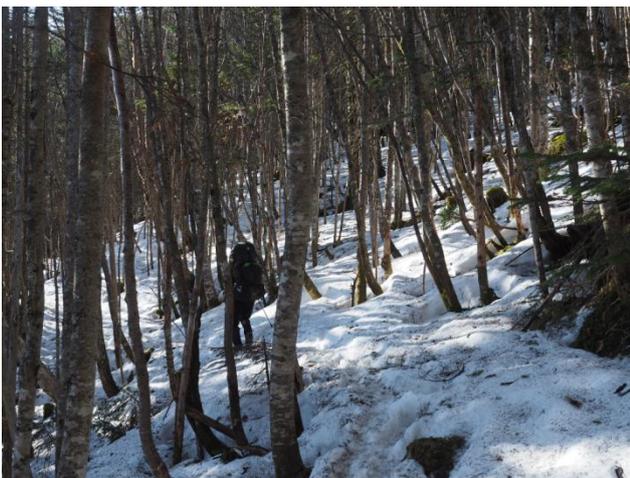


甲武信岳山頂

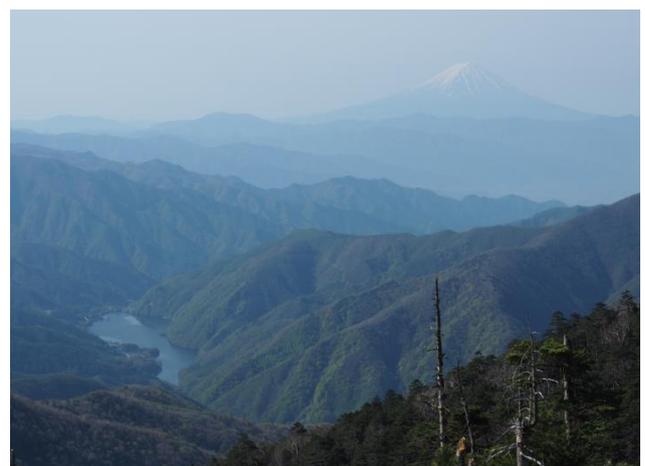
山頂から10分ほど下って、無事に甲武信小屋に到着。テント1張り1000円。テント場は、半分はまだ雪に埋まっています。地面の出ている部分は、雪解け水が流れ込んでドロドロのぬかるみ。乾いた地面はわずかで、すでに先客のテントで埋まっています。私は雪の部分掘って平らに固めてテントを張ったところ快適なテント設営ができました。一日の最後に雪掘りで、体力を絞り出して終わりました。

### 3日目：

朝5時、外の薄明りで目覚めました。甲武信岳の山頂で日の出を見るぞと決めていました。急いで全身防寒を固めてテントを飛び出し、15分で山頂到着。ほんのりピンク色に染まった南アルプスの山並みと富士山を拝めました。まずテントを撤収してから、小屋の前のデッキで落ち着いて朝食の時間を味わいました。ゆっくり7時に出発。最初は雪が多く残る森の中を進む。尾根に出ると雪はなく、富士山を眺めながら楽しく尾根歩きます。手前にはダム湖が見えて美しい景色ですが、空気が霞んでいるのが残念でした。約4時間歩いて雁坂峠に到着。ここから2時間の下りです。新緑のブナの森や溪流に癒されながら、西沢渓谷入口に下山しました。初めての縦走コースを無事に歩き抜くことができ、良い経験になりました。



残雪がたくさん



富士山と広瀬湖（かすんでます）

### 《コースタイム》

1日目 瑞牆山荘 10:50、富士見平 11:25、瑞牆山 12:40、富士見平 13:50、金峰山 17:20 (6.5h)

2日目 金峰山 6:00、大弛峠 8:00、国師ヶ岳 8:50、富士見 12:00、甲武信岳 12:30、甲武信小屋 13:00 (7h)

3日目 甲武信小屋 7:20、西破風山 9:05、雁坂峠 10:55、道の駅みとみ 13:00 (5.4h)